

突然の職務変更のわだかまりを乗り越えて、今!!

法律事務所職員 坂本 美奈子

私が法律事務所に就職したのは1992年5月だった。以来、受付業務（接客・電話・コピー・ワープロ・郵便取寄など）を3年、外回り業務（裁判所や法務局等へ書類の提出・受領、執行関係のサポートなど）を2年半、経理を7年という具合に業務を担ってきた。

◇◇◇ 13年目のベテランなのに 分からないことだらけなんて…

昨年、弁護士数人が独立をした。それまで経理中心の仕事をしてきた私に、突然、弁護士サイドから「弁護士が減った分、経理の仕事量も減っているんだから、法律実務もやって欲しい」という業務範囲の拡大の要望が出された。私は戸惑いを隠せなかった。「法律業務から離れていた期間があまりにも長すぎる。どの業務も責任が伴うわけだが、以前のようにきちんとこなせるかどうか心配だ。入所して13年目に突入し、いわゆるベテラン事務員の域にある。後輩もいる。実は、分からないことだらけなんて格好が悪い」。こんな気持ちが先に立ち不安になってしまった。振り返れば、私が書面作成をしていた頃はまだB5判縦書き、でも今はA4判横書き時代だ。

外回りの業務を担当していた当時は、経験した事案については、その都度ファイリングして、次に同じような案件が来たときの参考にしようと整理し取って置いた。そのスクラップの類も、多少は参考になるが、時は移り変わり、役に立たなくなってしまう。民訴法改正など、時々の法改正にともなう業務研修等には参加してきたものの、経理業務に甘んじて、日々の勉強を疎かにしてきた現実を直視しなくてはならなくなった。

◇◇◇ 現実を受け止め、 後輩に一から教えてもらうことに

「こうなったら、もう前を見るしかない。胸を張っ

て仕事ができるようになろう」。少しずつ現実を受け止め、気持ちが座ってくると、恥ずかしながら後輩にいろんなことを聞いてみるようになった。内容証明の割印の押し方に始まり、破産申立書類の整理の仕方など他にもたくさんある。仕事内容によっては一から教わらないといけない。ほとんど新入所員並みである。いまだ後輩にチェックされてしまうこともある。けれど、「分からない」や「出来ない」では、仕事もはかどらない。業務を一つ一つきちんとこなし、自信を持って仕事ができるよう努力を積み重ねた。

◇◇◇ 法律事務所ならではの仕事から 得られる楽しさ・満足感

そうこうしているうちに、簡単な書面作成や債務整理など事件に携わってくると新鮮な気持ちになった。仕事が楽しくもなってきた。自分が抱えている事案について弁護士と相談しながら進めていると、自分のやっていることがどの位置にいるのか見えてくる。共同作業している気がして満足する。やり甲斐も感じる。

不安な気持ちはまだまだある。しかし、経理のときには感じられなかった法律事務所ならではの仕事の楽しさや満足感が得られるようになった。日々変化する法律業務の世界で仕事をしていくために、これからも勉強を怠らず、弁護士や依頼者の役に立っていきたい。もちろん、後輩達の足を引っ張らないように（笑）。